

上宮田小学校
本年度の重点に対する評価

R2年度 重点1

本年度の重点	1	児童は教育目標に向かっているか
目標（評価規準）	・学校生活の中で、児童は「自立」し、向上心をもって「生きる力」を育む事ができる。 ・児童は、社会や他者に貢献することで、「自立」し、「生きる力」を育む事ができる。 ・児童は、楽しく学校生活を送ることができる。	
重点に係る現状 設定理由	○本校教育目標「自立・貢献」の具現化を図るために、児童並び教職員がその意義を捉えながら一定の成果が積み上げられてきた。児童が自立するために必要な学力の向上をさらにはかっていく必要がある。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○「学校教育目標・学年目標等を日々の教育活動に生かしている」の設問に対して、良好な結果が得られた。 ・「運動会」では、当日の活動だけでなく、準備や練習の段階から児童が主体的に活動している姿、自立に向かっている姿が多くみられた。 ○「職員のプロ意識のもと、教育活動がなされている。」「相互理解が十分になされ、職員が一体となって教育活動が行われている。」の設問に対して、良好な結果が得られた。 ・職員が協力しながら教育目標の実現に尽力していることがうかがえた。
各アンケート等の結果	<保護者アンケート結果> ○保護者の児童の様子に対する評価、学校の児童への働きかけに対する評価について、いずれも肯定的な評価が90%をこえていた。 ○「学校は、家庭との連絡や相談を充実させ、連携しようとしている」の設問に対して肯定的な回答は、92%であった。他の設問は、すべて95%を上回った。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○本年度は、コロナ禍という今までにない状況下であったが、全校が落ち着いた雰囲気教育目標に向かう姿が見られた。落ち着いたということは、その時その時の学習や活動に集中している姿とも解釈できる。よって、児童は、「自立」「貢献」に向けて努力していると言えるだろう。 ○本校の大きな行事である「かがやきのつどい」は中止としたが、「運動会」は規模を縮小して実施できた。「運動会」では、子どもたちの自信をもって表現する姿が見られた。 今後も、児童に自信をもたせること、すなわち自己肯定感を高めていくことを大切に教育活動を展開したい。そして、「自立」をさらに促したい。 ○児童会主催の「6年生を送る会」は、一斉に集う形で実施はできなかったが、学年ごとにVTRを利用するなどして実施した。在校生はお礼の気持ちをしっかり6年生に届くように発表している姿が見られた。また、6年生は、その在校生にこたえている姿が見られた。この様子からも、互いに「貢献してきた」ことが理解できた。これからも、学校全体が一体となって「仲間意識」が醸成されるようにしていきたい。そして、「貢献する心」を育てていきたい。
学校関係者評価結果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校評価委員会未実施。
最終改善方策	自己評価結果（見解と改善方策）と同様。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	教職員は、児童の健やかな成長のために自らを高め、貢献することができたか。
目標（評価規準）		・児童一人ひとりが、安心して楽しく活動ができる学級・学年・学校を確立する。 ・明るく元気な挨拶や優しい言葉の掛け合い、自己肯定感や他者を思いやることのできる学級・学年・学校を確立する。
重点に係る現状 設定理由		○昨年度までの学校経営状況を顧みると一定の成果をあげることができていると評価できる。しかしながら、教師が、まず、一人ひとりの児童をしっかりと理解し、その理解の上で授業や学級づくりを進めていくことは常に肝要である。そのための児童理解力、児童指導力、授業力等、教師としての力量を高めていかなければならないと考える。また、児童にとってより良い教育環境の整備も求められていると考える。

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○「上宮田小学校は、服務規律遵守、事故防止への意識が高い」という設問に対する回答が、全設問の中で、もっとも評価結果が高かった。これは、職員一人ひとりが、自らを律しながら職務を行おうとしていることが推察できる。 ○「上宮田小学校は、職員のプロ意識のもと、教育活動がなされている」という設問に対する回答が、全設問の中で2番目に高かった。自らを高めて子どもに貢献しようとしていると解釈できる。
各アンケート等の結果	＜保護者アンケート結果＞ ○「子どものことを理解しようとしている」についての肯定的な回答が96％、学校は、自立の礎となる基礎・基本を身につけさせようとして適切な指導をしている」についての肯定的な回答が99％など、概ね良好な評価を得た。教職員の児童に対する働きかけが児童の成長に有効に働いていると解釈できる。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○職員アンケート「上宮田小学校は、職員のプロ意識のもと、教育活動がなされている」という設問に対して、高い評価結果になっている。このことから、職員が、自らを高めていこうという意識が高いことがわかる。 ○日々の教育活動を充実させるため、職員は真摯に子どもに向き合う姿が見られた。経験が豊かな職員は、自らが培ってきたことを伝える姿、経験が浅い職員は、経験が豊かな職員から学ぶ姿を多く見ることができた。 ○コロナ禍により、学習活動に制限があったが、職員一人一人が一時間一時間の授業を大切に作る姿勢、子ども一人一人を尊重する姿勢が見られた。 ○切磋琢磨しながら、自らの力を磨き、それをもとに協働して子どもに向き合う職場づくりに向かいたい。
学校関係者評価結果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校評価委員会未実施。
最終改善方策	自己評価結果（見解と改善方策）と同様。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	学校関係者との連携は深化したか
目標（評価規準）	・児童の向上心を高めるため、指導場面において外部協力者等の地域の教育力の活用を図る。 ・児童の安全確保のために地域や保護者と連携した活動の充実を図る。	
重点に係る現状 設定理由	○登下校を中心とした地域における児童の安心・安全の確保においても「見守り隊」の皆さんの多大な協力を受けている。また、図書ボランティア等、「地域の先生」として学校教育の様々な場面に於いて、地域の方々の協力を受けている。これまで以上に地域や関係機関との連携、相互の理解を深めることで、児童が地域に対する思いをしっかりと持ち、地域で生きる一員としての自覚をさらに深めさせたい。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○家庭との連携を充実させたいという意識はもっているものの、コロナ禍の影響で保護者会の回数が少なくなったため、連携を深めるのは難しい状況だったと言える。
各アンケート等の結果	<保護者アンケート結果> 全項目にわたって、肯定的な回答が得られたということから、学校の指導の意図や方策が保護者にも伝わって協力を得られているととらえることができる。 授業参観、保護者会等の行事の中には、中止せざるをえないものもあり、保護者との連携の機会が例年より減ってしまったのは、残念なことである。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○「図書ボランティア」などの外部の方の活用は、感染症対策の観点から基本的に中止とした。 ○授業参観、保護者会等の行事が中止せざるをえない状況の中でも、保護者アンケート結果において、「学校へ協力しようとするお気持ち」がうかがえたのは、学校にとって、大変ありがたいことと受け止めたい。そのお気持ちをしっかりと受け止めて、今後の教育活動の展開を図っていききたい。 ○登下校を見守ってくださっている「見守り隊」の方は、従来通りの活動を展開していただいた。児童の安全確保の観点から大変ありがたいことととらえる。引き続き、連携を図って、児童の安全確保に努めていきたい。
学校関係者評価結果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校評価委員会未実施。
最終改善方策	自己評価結果（見解と改善方策）と同様。